



・鳥の博物館の利用 に関するアンケート	(資料2-1、資料2-2により説明) ・資料2-1は有効回答数400で変わりはないが、精査したら、整合性がないものがあったので、中身を見ながら修正を加えた。質問によっては若干数値が変わっているものがある。 ・資料2-2アンケート結果報告 資料1-1を分析したものの。回答者は、30～50代がボリュームゾーン。 紙のアンケートでは男性50代が一番多い。全体的に紙のアンケートの方が年齢は高い傾向にある。 P4鳥の博物館を知っている人は全体の99%を占めた。 P6「6年以上来ていない人へ来館されていない理由を教えてください」では「1回で十分」の回答が多く、来館数2～5回では、「目新しさに欠ける」が8人いた。 リピートしてもらう工夫が必要と思う。 P5鳥の博物館の来館数を「来館が1回、今回が初めて」とした人の約2割が「6年以上来ていない」と回答。1回来るとずっと来なくなる人が一定数いる。 博物館に初めて来館した人への質問で、来館前と「印象に変化があった」とした人のコメントは大多数が好意的なものであったが、その中には他の設問で「1回で十分」とした人が5人含まれている。 P10常設展示と企画展示の満足度について。約8割は「大変良い・良い」だが、多目的ホールは「普通」「わからない」の回答が多かった。ミュージアムショップも「普通」「わからない」の回答が目立った。多目的ホール、ミュージアムショップにあまり寄らない人が多いのかもしれない。使い勝手がよくないのか魅力を感じないのか考える必要がある。 常設展でよかったところは「手賀沼の自然と鳥たち」「世界の鳥」と回答した方が多い。 P12の「自由回答に記載された主な意見の類型」で触れているが、「ジオラマは残してほしい」、「世界の鳥に圧倒された」という意見もあった。 P11企画展は、直近に近いほどよかったと回答する傾向にあった。平成29年開催の「鳥・西・鶏・とり」は9%位の方が選んでいて記憶に残った企画展と考えられる。 また、「猛禽」がよかったとしている人が多く、またやってほしいという意見もあった。 P12「どのような展示を期待するか」自由回答してもらったもので、便宜上キーワードをつけて分類し、多かった意見を記載した。 体験参加型として、自分がとけ込めるような工夫がほしいという意見が多くあった。 その中には、VRのようなものも含まれているが、スタンプラリーのようなアナログなアイデアもあった。触れる展示、鳴き声が知りたいという意見もとても多かった。 現展示内容に関係した意見では、ジオラマは残してほしい。今の知見を反映して鳥の起源、恐竜への変化に関する展示をしてほしいという意見が複数あった。 人と鳥との共存のところでは、カラスやムクドリのような身近な鳥に関連する問題や気候変動による影響などを扱ってはどうかという意見もあった。 ソフト展開では、参加体験型あるいは館内の案内をデジタル化したらどうかという意見もあった一方で、「学芸員の解説がすごくよかった」「プラスαでいろいろ教えてもらった」という意見もあったので、人による解説も大事だと思う。	館
2 博物館の中長期ビジョン と今後の方向性 (活動計画)	(資料3により説明) ・第1回目の時の実施計画でその中のアンケートの結果、委員の意見あるいは前回展示の構成案を踏まえ、中長期ビジョンでは4本の柱について具体的にどうするかを先程のキーワードを入れて作った。	館

12についての	・免除申請とは何か説明してほしい。	平岡委員
質疑応答	→入館料の免除について鳥の博物館条例第4条にあり、70才以上の方、障害者手帳を持っている方、教育委員会が認めた者については、入館料を免除している。	館
	そのうち教育委員会の認めた者は申請の後免除になる。教育機関では、小中学生はもともと入館料はかからない。引率の先生は免除となる。障害者については、介助が必要な場合は障害者1人につき介護者1人を免除している。	
	・団体の来館状況を調査するために、免除申請というものが全てをカバーしているかどうか知りたい。	平岡委員
	→全てはカバーできていない。有料で入る方は免除申請がないので把握できない。	館
	教育委員会が公益上必要と認めるという項目に合致する人ということで、教育機関の団体、福祉に資する者、ボーイスカウトなどはある程度把握できる。	
	・イメージできないので具体例を言ってほしい。	平岡委員
	→学校で来た場合でも、免除申請が出ていなければ把握ができない。	館
	・決まりをわかっている人だけの統計データということだと概ねわかった。	平岡委員
	・団体利用のところを見ると、高齢者介護施設の利用が令和元年は21%、令和4年は6%、令和5年はないようだがこの傾向は何か。	西海委員
	→令和元年は当日の免除申請も受けていたため利用数が多くなっている。条例に基づく手続きなので現在は事前に申請するよう伝えている。	館
	・手続き上のことで利用していないようであれば、改善したほうがよい。	西海委員
	→高齢者だと70才以上は無料。免除申請も必要ないので、介護が必要な方は引率者も免除になり、そもそも申請不要と伝えている。	館
	・アンケートのP5について、わずかに否定的な意見は参考にすべきと思う。	平岡委員
	・ミュージアムショップは展示に比べると少し見劣りするという意見があるが、私は鳥の博物館のミュージアムショップはオリジナル商品が多いからよいと思っている。	平岡委員
	資料4のP8からも意外とミュージアムショップに来ている人がいるし、オリジナル商品は魅力的なので継承してもらいたい。	
	資料2-2のP12に進化も分類のところも更新とあり、更新はとても大変な作業だと思うが、P6の目新しさに欠けるということの解決にもなると思う。	
	・ミュージアムショップだけでも利用したい人が増えていると思っていて、かたくではミュージアムショップを30分以内なら入館料なしで入れるようにしている。	福井委員
	鳥の博物館のミュージアムショップ運営はどこが行っている？	
	→市の直営。グッズのみ買いに来た人はショップだけ入ってもらっている。	館
	・商品を考えている人は市職員か。	福井委員
	→そのとおりである。	館
	・入口に持ってくる案が書いてあるが、入口が殺風景と言われていることを考えるとよいと思う。	福井委員
	・4本の柱はどのようにして考えたか。	平岡委員
	→平成29年に中長期ビジョンを作っており、それを昨年見直したが、内容は大きくは変えていない。見直したときに概ね今の運営は継承するとしていた。	館

	<p>・友の会という言葉が出てきていない。自分も会員だが、デジカメ同好会とか万葉集同好会などいろいろな会があるが、そこの関係が触れていない。</p>	平岡委員
	<p>友の会で地元の鳥の調査をする催しとしてツバメの調査なども行われているが、そういう交流は大事。友の会で学芸員とともに鳥と自然環境について一緒に考えていくということ。デジカメ同好会などを見ている、博物館と離れて割と独立独歩でやっているように見える。友の会と学芸員の関係がよそよそしいようにも思える。古い例だが、平塚市立博物館では友の会で近隣を歩いて、その成果をもとに「相模川事典」といった大部の書籍に結実させた。自分たちで学んだ成果が行政にも役立ち、展示にも活かせるという例もある。そのように学芸員とおもしろそうにやっていると市民も興味を持ち、好循環ができるので目指してほしい。</p>	
	<p>・友の会の立場として言うと、友の会と博物館の関係は割と希薄である。</p>	伴野委員
	<p>友の会は独立して活動している。博物館とは特定の期間だけ関わっているという印象。鳥博の活動に関わるには市民スタッフになるしかないのが現状です。友の会ができてから会員を増やそうとして、みて歩こう会という同好会を作り、会員が一時380人くらいに増えると同時に鳥博の入館者も増えた。現在は220人ほど。</p>	
	<p>子どもたちも含めた活動につながるよう鳥博と一緒にやっていくことは必要だと思う。</p>	
	<p>・博物館には博物館が主催する行事、友の会が主催する行事の両方がある。</p>	平田委員
	<p>大阪市立博物館の活動は当時は大きく3つ位あった。20年位前だが、博物館の活動、友の会の活動、どう分かれているかわからない位ごちゃまぜだった。良さとしては、博物館と市民がごちゃまぜになっていて教育的効果が大きかった。教育的な娯楽を市民に与える機会になっていて、学校ではできないような活動を地域を超えて博物館でできるわけだが、ただのサークルではなく、学芸員がいるというのを感じられた。</p>	
	<p>大阪市立博物館で私は育った。取り組みによって私は鳥の博物館で育ったという人が一杯出てくると思う。</p>	
	<p>・資料3にある市民スタッフと友の会の違いは何か。</p>	鶴見委員
	<p>→市民スタッフはボランティアスタッフで、半日500円で博物館活動に協力してもらっている。中には展示交流スタッフとイベント時に案内する方がいる。</p>	館
	<p>友の会の中には市民スタッフに登録されている方もいると聞いている。</p>	
	<p>・市民スタッフには2つのカテゴリーがあるということか。</p>	鶴見委員
	<p>→大きく分けて展示交流スタッフ、館内で来館者にに対し学芸員につなぐ人、</p>	館
	<p>野外活動スタッフという自然観察会に補助してもらおうスタッフがいる。</p>	
	<p>イベントのとき、イベントの中味によって、2つは分割されておらず行き来がある。</p>	
	<p>市民スタッフに登録した人はどちらにも参加できるようになっている。</p>	
	<p>・友の会の活動に関連して、昔、岸和田市の博物館で驚いたのは地元の小学生が持ってきた虫をそのまま展示するようなことをしていたこと。</p>	森委員
	<p>友の会の活動も含めて日常的に地域の皆さんがいろいろ観察した資料が展示されたコーナーがあってもよいと思う。季節ごとの変化が共有できるし、博物館に対する関心が高まると思う。もっと近隣も含めた仕掛け作りがあると、入館者が増えるし友の会の会員などももっと広がっていくと思う。収蔵資料が満杯ということについては、例えば、標本とデジタル的なものとセットにした展示ケースをショッピングセンターの監視が届くところに設置して、鳥の博物館を認知してもらおうしてもらうような仕掛けを展示活動の一環としてやっていくのはどうか。集客や住みやすさのアピールにもなると思うので、魅力向上策を検討していただけたらという気持ちがある。</p>	

	<p>・鳥の博物館では運営上の制約があると思う。建物の広さ、人目的にも限られた学芸員、予算的な制約があるが、その中でも、来場者を増やすことについては、運営をどうするか検討の余地がある。我孫子野鳥を守る会は、一昨年度の50周年記念イベントで周辺市でも手賀沼巡回写真展を行った。鳥好きな人が多く来場した。会員も増えた。鳥への関心ということでは潜在的なポテンシャルがあると思う。</p> <p>例えば、企画展の後に、近隣の柏、松戸などでも巡回展示をしたらよいのでは。そうすれば、企画展で作ったものを長く活かせるし実際に博物館に行ってみたいというきっかけづくりになる。会では市内小学校で巡回写真展をやっている好評である。一過性でなく継続的な仕組みにしたい。他でよくあるジュニア向けのプログラムを博物館で提供するのはどうか。市民の財産として市民の財産として活かしていけるとよいと思う。</p>	相良委員
	<p>・現在は千葉県立中央博物館海の分館に勤めているが、その前は青葉の森公園の中にある本館にいた。本館と海の分館は客層が違う。本館は小学生が気軽に来たりいびたような感じ。分館は人口が少なく、観光として車で来る人が多いという違いがあり、普段から地元の子どもがいきなりいびたりになるというのはない。鳥の博物館の特性を活かして、こんなに遊べそうな博物館に我孫子の地元の子どもが気軽に来られるかどうかは市民が普段使いしているかどうかと思う。</p> <p>友の会は学芸員にとって負担にはなるが、学芸員にとっては嬉しいこと。そのあたりの確認や意識は持っていたほうがよいと思う。</p>	平田委員
	<p>・我孫子のインフォメーションセンターの管理運営をしている。昨年4月に観光を活かしたまちづくりという要素が加わった。我孫子に鳥の博物館があるのは財産。市民としての誇りにつながる施設だと思う。市内の小学生は必ず来るようになっているだろうか。</p> <p>→市内の小学3年の社会科見学で必ず一度は来るようになっている。</p>	中井委員
	<p>・きっかけがあるのだから、もっと子どもたちが集まるところになると思う。そして、我孫子の子どもたちに博物館で学習して体験できるということを大きくPRしてもらい、我孫子に来る人が増え、我孫子が発展していくことを望む。</p>	中井委員
	<p>・資料3の方向性のデジタルアーカイブについて、インターネットで情報収集はしているか。オンラインで情報の双方向となってきているので例えば、鳥の鳴き声が送られてきて、自分が送ったものが展示に役立つと喜びになる。</p> <p>→展示に直結する形での情報収集はしていないが、市民からこういう鳥がいたとか、インターネットではなかったかもしれないが情報提供があった。</p> <p>友の会とツバメ調査をやっている、その調査の仕方を博物館と調整して取り組んだ。長期ビジョンに書いた鳥の科学と地域の情報センターと関連しているが、今後も大切になると思う。</p>	神野委員
	<p>・例えば、手賀沼のパネルがあってプロジェクターで映しているのを最近見たが、12月に集まった情報が映し出されたり、クリックすると音が流れるとか、画面が拡大するとか、予算面はあるがそういうのがあれば子どもが興味を持ち、そこにいたくなると思う。</p> <p>ミュージアムショップの商品を市が考えているというのも何年かに1回でもよいが市民にアイデアを募ってはどうか。アイデアが商品となって置いてあると嬉しい。市民を巻き込む視点も大切ではないか。</p>	神野委員

	<p>・資料を貸し出すことで稼ぐのはどうか。博物館も収益を上げる方策を外に求めるような形もあると思う。市民スタッフ募集の中に例えばセールスプロモーション的なマーケティングも含めて、地方に売る周辺市町村に売り込むような形、サントリーのような野鳥に関心を持っている民間企業とタイアップして何か広げていとか、スポンサーになっていただくような形も含めてマーケティングの観点でのスタッフ募集というもの、一つ検討いただけたらと思う。以前の委員会の資料「鳥の博物館の運営方針と実施計画」にあった今後の方向性で、気になっているのは資料収集スペースの確保と保存処理作業場の確保ということで、特に13ページの、標本の恒久保存場所として不適切であったとまで言い切っているということは現状を考える上で、資料の保存を最優先に取り組む必要があるかと思う。資料処理作業場のスペース確保と、展示室のありようについて、優先順位をどこに置くのか意見を聞きたい。</p>	森委員
3	フロア構成案	(資料4により説明)
	<p>・1Fにミュージアムショップを持ってくる。</p> <p>・2Fは、日本の鳥を常設展示に設ける。A案が企画展示室を現在と同じ位置に、B案が企画展示室を現在の多目的ホールに持ってくる案。</p> <p>そして、現ミュージアムショップに体験学習コーナーを移す。鳥の実物標本や図書を見比べて鳥に関して学べる場になればと思う。先程の平塚の博物館の例示のように放課後にいりびたれる場になればよい。学芸員を介して気軽に標本に触れられるようなスペースにしたい。手賀沼の鳥は最新の鳥類相の知見をもとに標本を差し替える。デジタルサイネージ的な手法で容易に更新できるようにしたい。</p> <p>B案は常設展示と企画展示の動線がスムーズ。A案は改修範囲が広がる。世界の鳥は基本構成は変えないが解説を「科」単位から「目」単位にする。</p>	館
	<p>・人が集まってレクチャーできる部屋はなくすのか。</p> <p>→日本の鳥にするとときに、半分残すあるいは壁面に標本の展示スペースを作っているイスを出して講演ができるスペースを設ける副案が考えられると思うが、大きな講演は外で行う。例えば、水の館の研修室とか大きな講演を行うスペースが考えられる。</p>	平岡委員
	<p>・やはり、雨が降ることもあるし同じ施設で話が聞けると不便でなくてよいと思う。</p>	平岡委員
	<p>・森委員より収蔵庫の話があったが、現状、出し入れも苦労されていると思うが、全体的なスペースが限られていると思う。かはくでもクラウドファンディングによって日本の標本をなんとか維持していくというふうになったが、行政側には収蔵というのはあまり重視してもらえない。実際にクラウドファンディングをやってみて予想を上回る7、8倍の寄付が集まった例がある。今の国民は博物館の標本に対する価値を理解してくれていると思うので参考になればよい。</p>	西海委員
	<p>・2FはB案がよいと思っている。常設展示と企画展示がくっきり分かれているほうがよい。企画展示をやっていないとき常設展示が情報が連続して理解しやすいこともある。また、企画展示の準備は開館時間中に行うのは難しいが、B案だと開館時間中でもその作業にあたる。セミナーとか会議とか行う場合は、敷地が十分にあれば敷地内にあった方がよいが、そういう部屋はある意味どこにあってもよいと思う。展示室は鳥の博物館にしか置けないので、限られたスペースでは多目的ホールを外に出すというのはよいと思う。</p>	平田委員

	・収蔵庫から何割位の標本が展示できるようになるのか。	森委員
	→現在の企画展示室と多目的ホールでいうと、多目的ホールの方がおそらく壁面を全部使った場合に入る数は多いと思う。企画展示室の収蔵展示に近い。「日本の鳥」という展示を何回かやったことがあり、展示ケースの中に入れられるだけ入れ込んで260点位で、収蔵庫にある標本の1～2割だと思う。大幅な改善にはならないが、1割出せるということによいと思う。A案の場合はさらにそれより多く出せると思う。	館
	・収蔵展示スペースを広げたい。保存環境を整える必要がある。現在の工事による標本への影響はどうか。	森委員
	→床面積を変えないと如何ともしがたい。多目的ホールを収蔵型展示にすることで改善はあると思う。それによって多少スペースの融通がきく。現在の工事の影響については、基本的に冬に害虫は活動しないので大きな影響はないと考える。工事の関係で多少開けっ放しになっているが、標本モニタリングを継続している。	館
	・最近博物館がどういった活動をしているのか市民に知って頂く場として見せる収蔵庫を作る博物館がある。今回は同じケースではないが、収蔵物を見せる機会が増えるので博物館の大きな機能として収蔵庫や収蔵展示について来館者に知って頂くような機会をパネルなどで作ったらどうか。	福井委員
	→意見のとおり、博物館の役割を理解してもらう手法として収蔵展示はとても大事だと考えている。	館
	・手賀沼の鳥に書いてあるデジタル的な手法について、更新性に配慮して、他に例えば、鳥の骨とかも今日的な課題と関わっていく中で、更新が必要と思うのでそのような視点でデジタル的なものを重点的に採用していく考えがあれば示してほしい。	平田委員
	→手賀沼の鳥以外このコメントがないが、全体的に容易に情報更新が必要になるような場面にはそういう手法を検討したほうがよいと思う。詳細はどの項目をどこに配置するなどはどういう手法で展示を行っていくかは次の会議で議論を深められると思う。	館
	・例えば、鳥の行動とか生態とか動きを見せるのには有効だと思う。	平田委員
	動線については、とくに2Fに関してはどちらから見てもよいのではないかと。最近は動線があえてない展示もあるが、あえて示したものは事情があるか。	館
	→乃村工芸社さんに書いてもらったもので、これがベストでこれだけとは考えていない。鳥の博物館として3Fから見るか2Fから見るかという説明はあまりしておらず、どちらから見ても個人的にはよいと思っている。2Fは地元の環境問題の展示があり、3Fは鳥の科学の展示があるがどちらから見のを勧めるかというのはおそらく一度も提示したことはない。	乃
	→一応補足すると、現状このように廻っているようだということで置いている。それを書いた方が企画展示室をどこに置いた方がよいかの足しになったと思った。	乃
	あとフロアごとには概ねこのように廻っていると思う。どっちに入口がある方がよいかは考え方しだいと思う。	乃
	→説明不足だったが、2Fの中での動線は概ねこのような動線になっている。	館

	<p>・この博物館に来て何を印象に残して帰って行ってほしいかという狙いは大切だと思うので、そういう意味では鳥の保全が一つ大きいのかと思う。最後に見てもらうのがよいと思うが、まだ、もう少し議論の余地があるだろう。</p>	平田委員
	<p>→話を聞いて気が付いたが、一応3Fの出口のところもあるし、2Fから3Fに廻ろうとすると、地元的环境や企画展示を見たあとに鳥とはという話になるので、現状もあまりきれいではない。1から入って10で終わると鳥の1から10までわかるようになっていなくて、現状の展示を活かしていこうとすると、組み直すのが難しいと改めて感じた。</p>	館
	<p>・手賀沼、日本、世界という空間のスケールの的に階層的になっている気がするが、伝えることを変えればよいと思っていて、手賀沼の鳥では日本スケールの違いを見せたいということであれば、世界の鳥は逆に多様性を伝えるとか。</p>	平田委員
	<p>以前の委員会でも話したと思うが、日本というところはおもしろいところで、例えば、2Fだったら、地史とか大地の成り立ちとか海流とかと絡めて日本を語り、その中でも手賀沼を伝えるというのも、また、世界ではこれだけ多様な鳥がいるというのを伝えるとか、伝えたいことを変えればよいと思う。それをしっかり来館者に伝えるようパネルとか解説で示してあげるのが重要と思う。</p>	
	<p>・先程、講演などはこの水の館で行うという話があったが、例えば、この水の館に来ている人を博物館にいざなうとか連携とかそういうことは考えられないか。</p>	小川委員
	<p>→1Fに元々手賀沼の自然に関する展示をする場であったこともあり、その機能の一部が残っていて1Fに手賀沼にいる鳥の紹介のところに博物館サテライト展示コーナーがあって、博物館に行く現状はある。今回のリニューアル計画でここを改善することは今のところ検討していない。</p>	館
	<p>・中長期ビジョンの方向性に関して、具体的なスケジュールなど伺いたい。</p>	森委員
	<p>→今後の予算を含めたスケジュール的なことについては、今年度の基本計画検討委員会は今回で終わり。来年度は2回行い、方向性と委員の意見を伺いながら展示リニューアルの基本計画を来年度中に策定する。そこまでは予算化されている。令和7年度は展示リニューアル実施設計、令和8年度は展示工事、令和9年度から新規オープンを予定している。予算的には7年度以降は要求中だが、現時点、担保はされていない。</p>	館
	<p>・中長期ビジョンと今後の方向性の実施計画に記されている16項目について実施年度を書き込んでおいたほうがよいのではないか。</p>	森委員
	<p>→今後の実施計画、運営計画となっているが、具体的な計画期間はここでは記載していない。これはスローガンの方向で進んでいくという形で現在は置いている。それを実現するために、市の総合計画や教育委員会の教育施策など3年の実施計画で示して実現していく予定。具体的な期間を記載できればよいが、都度実施計画に載せて実現していきたい。</p>	館
	<p>・今回は展示リニューアルについての検討なので直接反映はできないと思うが、今後の検討課題として、収蔵庫に関して、手賀沼の前なので水の進入防止策等にも配慮してほしい。</p>	鶴見委員
	<p>次回の検討委員会は5月を予定。改めて連絡する。</p>	館
	以上	